

# 幼児教育センターだより



富山県教育委員会 教育みらい室 小中学校課  
富山県幼児教育センター

園・所では、1年間の活動や子どもたちの成長を振り返る時期ですね。幼児教育センターでは、令和6年度の研修会等で先生方にいただいたご意見を基に、令和7年度の計画を立てています。PDCA サイクルを活かし、令和7年度のスタートに向けて、この1か月を有効に活用していきましょう。

## 第6回幼児教育推進リーダー育成研修 修了証交付

【実施日】1月31日（金）

令和6年度幼児教育推進リーダー育成研修受講者に修了証を渡しました。令和7年度から、幼児教育推進リーダーV期生として、訪問研修等に参加します。

### 【受講者の声】

育成研修会や訪問研修に参加して、改めて、子どもの姿に合わせた関わりの大切さを学びました。保育者同士が互いに認め合うことを大切にしていくと、若い先生方も育っていくと思います。保育者のよいところを伝えることを心がけて訪問研修に臨みたいですね。

訪問研修で、訪問先の保育や悩みに対するアドバイザーの先生方の姿が学びになりました。自園に置き換え、どのように職員に伝えていくかも具体的に深く知ることができました。子ども達が遊びに夢中になるために保育者が意味をもって援助する、環境構成することが、子どもの主体的な姿を生むために大切なことだと再認識しました。



令和6年度推進リーダー育成研修 受講者

訪問研修では、まず、その園その園の特性を捉えた上で、先生方が取り組んできておられる背景を理解していきたいと思っています。そして、共有、共感しながら、具体的に次につながるヒントを伝えられる技術を身につけながら、勉強し続けたいと思います。

## 幼児教育アドバイザー研修会、幼児教育推進リーダーフォローアップ研修会

【講演】講師 京都教育大学 古賀 松香 先生

演題「園・所の気づきを促し、実践につなげるために」



園訪問で目指すのは、幼児教育・保育の質向上へ向かう具体的な動き、実践の変容を生み出すこと。保育者自身が実践を捉え、少しの工夫をし、そこから手ごたえを得る、そんな仕組みが大切です。

対話を通して、共感的支援を基本としつつも、ちょっとした挑戦や問いを含ませながら、変化を少しずつ起こす伴走者として、園・所が、保育者が、保育が、楽しくなる研修づくりを目指し、園・所を支援していきましょう。

### 【受講者の声】

訪問して観察したことをストレートに伝えるのではなく、小石をボタンと落として波紋が広がるように、園や保育者のこれからの保育につなげることができる伝え方を大切にし、訪問研修に参加したいです。

「アドバイスに正解はない。一緒に保育を楽しもう」という言葉がとても印象的でした。訪問を通して見えた課題は、園の変容のきっかけです。課題解決に向け、具体的な手立てがイメージできたり、考えていく上のヒントとなったりする伝え方を学んでいきたいです。

園を訪問するとき、その園の取組の一步先を捉え、どのように進めればよいかを、様々な角度から教えていただきとても勉強になりました。訪問研修に限らず、自園のマネジメントにも生かしていきたいと思っています。



# 幼保小の円滑な接続について

—令和6年度の取組より—



## 1 幼保小接続研修等の参加者数等

※ ( ) 内は令和5年度

### (1) 円滑な接続のための研修会

【参加者】 幼児教育関係者：110名(75名)  
小学校関係者：66名(59名)

### (2) 地区別幼・小接続研修会

【参加者】 幼児教育関係者：130名(107名)  
小学校関係者：113名(134名)

### (3) 幼児教育施設訪問研修

【小学校からの訪問があった施設の割合】  
約65%(約50%)

### (4) 市町村及び幼児教育団体等における研修会等への幼児教育センターからの講師派遣及び参加(幼保小接続に関するもの)

全14回(7回)

## 2 成果と課題

### 【成果】

- ・訪問研修への小学校側参加率の増加から、幼保小接続に関して、小学校側の理解が広まりつつあると考えられる。
- ・市町村幼児教育主管課や幼児教育団体等の研修会開催回数の増加等から、幼児教育側でも幼保小接続の学びを深めようとする動きが強まってきていると考えられる。

### 【課題】(実施の研修会の様子等から)

現在、小学校側の関わりは「保育を見て感想を述べる」段階が多い。今後、互いの保育・教育について理解を深めていく段階に進みたい。そのためには、まず、保育者と教員が関わりをもてる機会を増やしていく必要がある。かつ、この重要性について市町村の偏りなく、行政担当者の理解を求めていく必要がある。

要領・指針に記されているように、幼児教育で3つの資質・能力(①知識・技能等の基礎、②思考力・判断力・表現力等の基礎、③学びに向かう力、人間性等)が育まれていくことが大切です。幼児が小学校に就学するまでに、創造的な思考や主体的な生活態度等の基礎を培うことは、その後の小学校での学びを支えます。

幼児教育センターでは、「施設の所在地や類型によらず、幼児教育施設が広く他を知る機会を設ける」「取り組みやすい方法を模索する」など、今後も保育者の学びを支えていきたいと考えています。

## ☆ お知らせとお願い ☆

### これから訪問研修の申込みをされる皆様へ

現在、8月、9月及び11月以降の日程に余裕があります。訪問日を決められる際の参考にしてください。4月以降も受け付けますので、ご質問等ありましたらご連絡ください。

### 令和6年度中に、令和7年度幼児教育施設訪問研修を申し込まれた園・所の皆様へ

4月に訪問の詳細について回答いただく予定になっております。事前に登録していただいたメールアドレス宛に回答フォームの2次元コードを送付します。ご協力をよろしくお願いいたします。

### 市町村幼児教育ご担当の皆様へ

4月に市町村幼児教育担当者の情報を共有させていただく予定になっております。3月中には記入様式を送付いたしますので、分かり次第ご連絡いただくと助かります。

## ★青山スーパーバイザーから今月の一言★

訪問研修のテーマとして「子どもの主体性」をあげる園・所が多くあります。あわせて事後研修会の話題等から、「子どもの主体性と保育者の意図のバランス」について、多くの保育者が悩みをもっていることが分かります。

このようなとき、青山SVは「保育者の主体性の重要性」について話されることがあります。

「私たちは子どもに主体性を求めがちです。しかし、私たち保育者の主体性はどうでしょう。保育を楽しんでいるでしょうか。」

これを読んでいるあなた！あなたはどうか？日頃の保育を楽しんでいますか？

「主体性」と「楽しむ」気持ちには強いつながりがあります。子どもでも大人でも、保育でも教育でも、ほかの仕事でも、主体性が発揮される前提として楽しいかどうかはとても大切なことです。主体性を考える上でいつも立ち戻りたい言葉です。

